

大学における家庭科教育に関する基礎的研究(第1報)

千葉大教育 大町淑子

〔目的〕 千葉大学教育学部では、小学校教員養成課程学生と主な対象として、家庭科概説、家庭科教材研究を開講しているが、学生の家庭科に関する学力に開きがあるばかりでなく、関心、学習態度も多様である。家庭科教材研究を担当する立場から、この授業の充実を図るとともに、それ等を通して小学校家庭科教育の発展を目的としている。

〔方法〕 今回は、受講学生の家庭科教育の学習歴から研究を行った。学習歴には、性差、個人差があるため、共通の学習で、かつ初めての家庭科教育である小学校時の家庭科についてみる。学生の小学校時の家庭科担当教員、家庭科教室、学習内容とその印象、問題点などについて、アンケート調査を実施した。時期は、昭和58、59年度の前期、後期で、調査対象数は428名である。

〔結果〕 ① 担当教員：担当教員の性別は、男子6%、女子94%で、地域による差は殆どない。教員の担当方式でみると、総数では、専科48%、学級担任26%、学年内の他学級担任16%、低学年の学級担任8%である。専科の比率を地域別にみると、千葉県34%、東京都82%、その他の地域44%で開きがある。

② 家庭科教室の有無：総数では、家庭科教室有か、58年度78%、59年度80%であるが、地域により開きがある。施設・設備としては、上・下水道は概ね備えられているが、熱源はこれより少ない。

③ 家庭科教室の有無と、担当教員との関連：家庭科教室有の場合は、専科担当の比率が、家庭科教室無よりやや高い。